

「平泉－仏国土(浄土)を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群－」  
世界遺産推薦書の概要

1 名称

平泉－仏国土(浄土)を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群－  
(前回提出時：平泉－浄土思想を基調とする文化的景観)

2 遺産の種別

文化遺産(記念工作物・遺跡)

3 所在地

岩手県平泉町

4 主な内容

(1) 価値の証明

① 顕著な普遍的価値の言明

平泉は、12世紀日本の中央政権の支配領域と本州北部、さらにはその北方の地域との活発な交易活動を基盤としつつ、本州北部の境界領域において、仏教に基づく理想世界の実現を目指して造営された政治・行政上の拠点である。それは、精神的主柱を成した寺院や政治・行政上の中核を成した居館などから成り、宗教を主軸とする独特の支配の形態として生み出された。

特に、仏堂・浄土庭園をはじめとする一群の構成資産は、6～12世紀に中国大陸から日本列島の最東端へと伝わる過程で日本に固有の自然崇拜思想とも融合しつつ独特の性質を持つものへと展開を遂げた仏教、その中でも特に末法の世が近づくにつれて興隆した極楽浄土信仰を中心とする浄土思想に基づき、現世における仏国土(浄土)の空間的な表現を目的として創造された独特の事例である。

それは、仏教とともに受容した伽藍造営・作庭の理念、意匠・技術が、日本古来の水景の理念、意匠・技術との融合を経て、周囲の自然地形をも含め仏国土(浄土)を空間的に表現した建築・庭園の固有の理念、意匠・技術へと昇華したことを示している。

平泉の一群の構成資産は、浄土思想を含む仏教の伝来・普及に伴い、寺院における建築・庭園の発展に重要な影響を与えた価値観の交流を示し、地上に現存するもののみならず、地下に遺存する考古学的遺跡も含め、建築・庭園の分野における人類の歴史の重要な段階を示す傑出した類型である。

さらに、そのような建築・庭園を創造する源泉となり、現世と来世に基づく死生観を育んだ浄土思想は、今日における平泉の宗教儀礼や民俗芸能にも確実に継承されている。

以上の理由により、「平泉－仏国土(浄土)を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群－」は顕著な普遍的価値を持つ。

② 評価基準への適用

ア) 評価基準(ii)

平泉の仏堂・浄土庭園群及び考古学的遺跡群は、6世紀に中国・朝鮮半島から伝来し、日本古来の自然崇拜思想と融合しつつ、12世紀にかけて独特の性質を持つものへと展開

を遂げた日本の仏教、その中でも特に興隆した浄土思想に基づき、現世における仏国土（浄土）の空間的表現を目指して創造された顕著な事例である。

それらは、仏教とともに受容した伽藍造営の理念及び意匠・技術を出発点とするのみならず、同時に受容した外来の作庭思想と古来の水辺の祭祀場における水景の理念、意匠・技術との融合をも出発点として、それに後続して成立・発展を遂げた日本の独特の仏堂・浄土庭園の理念及び意匠・技術の伝播の過程を証明している。

#### イ) 評価基準 (iv)

日本の12世紀は、浄土思想に基づき、現世に仏国土（浄土）を実現できると考えられた独特の時代であり、建築・庭園が一体となって仏国土（浄土）を表す多くの作品群が生み出された。平泉の構成資産の中でも仏堂及び一群の庭園は仏国土（浄土）を空間的に表現しようとした優秀な芸術作品であり、それらの考古学的遺跡をも含め、世界史上、他の仏教圏では類例を見ることのできない建築・庭園の顕著な事例である。

#### ウ) 評価基準 (vi)

平泉が造営される過程で重要な意義を担ったのは、日本固有の自然崇拜思想とも融合しつつ、独特の展開を遂げた日本の仏教であり、その中でも末法の世が近づくにつれて興隆した阿弥陀如来の極楽浄土信仰を中心とする浄土思想である。

それは、12世紀における日本人の死生観を醸成する上で重要な役割を果たし、世界の他の地域において類例を見ない仏国土（浄土）を空間的に表現した建築・庭園群などの理念、意匠・形態へと直接的に反映した。さらに、それらは宗教儀礼や民俗芸能等の無形の諸要素として、今日においてもなお確実に継承されている。

### ③ 比較研究

国内外の同種遺産との比較研究を行った結果、平泉の一群の建築・庭園及び考古学的遺跡群は、インドから中国・朝鮮半島を経て日本へと及んだ仏堂建築及び作庭の発展に影響を与えた重要な価値観の交流を表すのみならず、同分野における歴史の重要な段階を示す他に類例を見ない傑出した類型である。

## (2) 構成資産の内容

### ① 中尊寺：特別史跡

奥州藤原氏の初代清衡が12世紀始めから四半世紀をかけて造営した寺院。境内には、金色堂、金色堂覆堂、経蔵等の国宝及び重要文化財がある。また、鎮護国家大伽藍一区跡等、境内の全域が特別史跡に指定されている。

こんじきどう  
**金色堂**…中尊寺境内北西側に位置する阿弥陀堂建築。藤原氏4代の遺体及び首級をミイラとして安置した霊廟であり、平泉の政治・行政のみならず、精神的な拠り所となっている。



② <sup>もうつうじ</sup> 毛越寺：特別史跡・特別名勝

二代基衡が12世紀中頃に造営した寺院の跡である。境内には、特別名勝に指定されている「浄土庭園」と、特別史跡及び特別名勝の構成要素である常行堂が含まれている。また、常行堂で行われる常行三味の修法と「延年」の舞は、12世紀における浄土思想の無形の要素として重要である。



③ <sup>かんじざいおういんあと</sup> 観自在王院跡：特別史跡・名勝

毛越寺の東に接して基衡の妻が建立した寺院。発掘調査の結果、園池を中心として、南側には大小の阿弥陀堂が設けられており、阿弥陀如来の極楽浄土の表現を意図して「浄土庭園」が造られていたことが明らかとなっている。



④ <sup>むりょうこういんあと</sup> 無量光院跡：特別史跡

三代秀衡が12世紀後半に建立した寺院の跡。西方に金鶏山が控え、園池に浮かぶ大小3つの島に翼廊付の仏堂と拝所・舞台をそれぞれ設けた空間構成は、「浄土庭園」の最も発展した形態と考えられる。



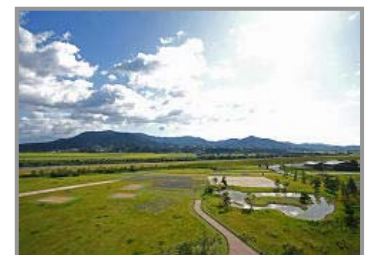
⑤ <sup>きんけいさん</sup> 金鶏山：史跡

標高98.6mの山で、山頂に経塚が設けられていた。浄土思想に基づいて完成された政治・行政上の拠点である平泉の空間設計の基準となった信仰の山である。



⑥ <sup>やなぎのごしよいせき</sup> 柳之御所遺跡：史跡

奥州藤原氏の住居であるとともに、政務の場でもあった「平泉館」と呼ばれる居館の跡である。初代清衡が造営した中尊寺金色堂、秀衡が造営した無量光院など、仏国土（浄土）を空間的に表現する建築・庭園とも空間上の緊密な位置関係を持つ。



### (3) 資産の完全性・真実性

推薦資産は、仏国土（浄土）を表現した優秀な芸術作品である建築・庭園及び考古学的遺跡群が、仏教に基づく理想世界の実現を目指して造営された平泉の中核をなす不可欠の諸要素として、適切な設定と良好な状態の下に、過不足なく含まれている。したがって推薦資産の全体は、高い完全性を保持している。

また、資産各々の真実性は高く維持されている。

なお、中尊寺金色堂のコンクリート製の覆堂は、金色堂に安置された遺体と首級（ミイラ）の保存のため、アジア地域特有の気候の制約に基づき、各時代の技術を駆使して行うものであり、金色堂の真実性は担保されている（イコモスから、中尊寺金色堂を覆うコンクリート製の覆堂が、景観上の真実性を弱めていると指摘されたことを受けたもの。）。

### (4) 保全状況と資産に与える影響

開発からの圧力、自然的環境変化、自然災害対策、資産の公開に伴う保護措置等については、修理や整備事業の実施、及び関係法令により適切に管理されている。

### (5) 保護・保存管理

資産及び緩衝地帯については、法令等に基づき保護・保全措置がとられている。

### (6) その他

包括的保存管理計画については、資産との関連性を示す指標の設置等、2008年のイコモス評価書及び第32回世界遺産委員会の決議文に示された指摘等に留意し、改定した。